



スペシャルスマイルズ®

スペシャルスマイルズは口腔内のスクリーニングやブラッシング指導を通してアスリートの食生活、健康への意識の向上などの包括的なオーラルケア情報を提供しています。また、受診したアスリートにはデンタルガムや歯ブラシ等を提供しています。

スクリーニング参加数

男性	309名	79.6%
女性	79名	20.4%

スクリーニング結果について

スペシャルスマイルズの検査を通して、スペシャルオリンピックスのアスリートの口腔内環境の状態について以下のことが分かった。

- ・ **72.7%** のアスリートが歯科治療を必要としなかった。
- ・ **25.3%** のアスリートに未処置のむし歯がみられた。
- ・ **48.4%** のアスリートに歯肉炎の兆候が見られた。
- ・ **18.3%** のアスリートがシーラントを塗布していた。
- ・ **54.4%** のアスリートにフッ化物塗布を勧めた。

お問合せ先

小笠原正：スペシャルスマイルズ® 部門
クリニカルディレクター 幹事
E-mail : ogasawara@po.mdu.ac.jp

幡谷真澄：スペシャルオリンピックス日本 事務局
E-mail : son_program@son.or.jp

スクリーニングの目的：

- ・ 知的障害のある人へオーラルケアに関する情報を提供し、彼らの健康意識を向上させる。
- ・ 知的障害のある人のオーラルケアおよび病院での受診に関する悩みについて、歯科医療従事者の関心を高めること。
- ・ データを収集・分析をすることで、知的障害のある人の口腔内の衛生環境を明らかにし改善すること。

担当者の総評：

多くのアスリートが治療を必要としなかったのは、「むし歯がない」「治療を必要とする歯肉炎が少なかった」ことに起因するが、「治療の必要性がない歯肉炎」は多かった。これは、わずかな磨き残しにより歯肉炎の兆候が現れるので、歯科保健指導の必要性があることを示している。

日本のむし歯があるアスリートの割合は25.3%に比べ、ヨーロッパのアスリートは33.4% (Fernandez C1,2015)、ポーランド41%、ルーニア70%、スロベニア61% (Fernandez Rojas C, 2016) であり、日本のアスリートはむし歯のある人が少なかった。今回、むし歯がみられたアスリートに対してスペシャルスマイルズが歯科受診の機会を提供した。

